情報組織化研究グループ
月例研究会2024年4月20日

夢見る「書誌コントロール」

元国立国会図書館
日本図書館協会分類委員長
中井　万知子

本日の内容

- はじめに：　なぜ“夢見る「書誌コントロール」”か
- 「書誌コントロール（書誌調整）」との出会い
  - 第二次大戦後の米国議会図書館（LC）とユネスコ
  - そして国立国会図書館（NDL）
- MARCからメタデータへ
  - NDLの書誌情報提供に見るいくつかの時代的局面
  - 「書誌部」の存在
- おわりに：　「NDLサーチ」からのアプローチ

なぜ“夢見る「書誌コントロール」”か

- 『夢見る「電子図書館」』（郵研社 2023.9）出版の経緯
  - 第2章　機械化と「書誌コントロール」
  - 「専門用語」の代表格としての「書誌コントロール（書誌調整）」
- 注釈抜きで「書誌コントロール（書誌調整）」を語れる場？

書誌コントロール（書誌調整）の一応の定義

- 資料を識別同定し，記録して，利用可能な状態を作り出すための手法の総称．書誌調整ともいう．

  （中略）

- 各館における資料組織化処理から始まって，国家や国際的な規模で標準的な書誌的記録を作成し，共同利用するための仕組みに至るまでの全体を書誌コントロールという．（後略）

『図書館情報学用語辞典』第5版　丸善出版，2020

?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?><rdf:RDF xmlns:rdf="http://www.w3.org/1999/02/22-rdf-syntax-ns#" xmlns:rdfs="http://www.w3.org/2000/01/rdf-schema#" xmlns:dc="http://purl.org/dc/elements/1.1/" xmlns:dcterms="http://purl.org/dc/terms/" xmlns:dcndl="http://ndl.go.jp/dcndl/terms/" xmlns:foaf="http://xmlns.com/foaf/0.1/" xmlns:owl="http://www.w3.org/2002/07/owl#" ><dcndl:BibAdminResource rdf:about="https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R100000002-I033043135"><dcndl:catalogingStatus>C7</dcndl:catalogingStatus><dcndl:catalogingRule>ncr/2018</dcndl:catalogingRule ><dcterms:description>type : book</dcterms:description><dcndl:bibRecordCategory>R100000002</dcndl:bibRecordCategory><dcndl:bibRecordSubCategory>111</dcndl:bibRecordSubCategory><dcndl:record rdf:resource="https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R100000002-I033043135#material" /></dcndl:BibAdminResource><dcndl:BibResource rdf:about="https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R100000002-I033043135#material"><rdfs:seeAlso rdf:resource="http://id.ndl.go.jp/jpno/23890262"/><dcterms:identifier rdf:datatype="http://ndl.go.jp/dcndl/terms/JPNO">23890262</dcterms:identifier><dcterms:identifier rdf:datatype="http://ndl.go.jp/dcndl/terms/NDLBibID">033043135</dcterms:identifier><rdfs:seeAlso rdf:resource="...isbn/978...907...26...99"/><dcterms:identifier rdf:datatype="...dcndl/terms/ISBN">978-4-9071...6...9</dcterms:identifier><dcterms:title>夢見る「電子図書館」</dcterms:title><dc:title><rdf:Description><rdf:value>夢見る「電子図書館」</rdf:value><dcndl:transcription>ユメ ミル「デンシ トショカン」</dcndl:transcription></rdf:Description></dc:title><dcterms:creator><foaf:Agent

Part1 「書誌コントロール（書誌調整）」との出会い

第2次世界大戦後の米国議会図書館（LC）とユネスコ

そして国立国会図書館（NDL）

LCサイト. About the Librarian. Previous Librarians of Congress. https://www.loc.gov/about/about-the-librarian/previous-librarians-of-congress/ より

1945

BIOGRAPHY

Luther Evans (1902-1981)

10th Librarian of Congress 1945-1953 Luther Harris Evans, the tenth Librarian of Congress (1945-53) and the third director-general of the United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization (UNESCO), was born on his grandmother's farm near Sayerville, Bastrop County, Texas, the son of George Washington Evans, a railroad foreman, and Lillie Johnson. Evans worked on his [...]

Date: 1902

1939

BIOGRAPHY

Archibald MacLeish (1892-1982)

9th Librarian of Congress 1939-1944 Writer and poet Archibald MacLeish was the first well-known figure from outside the library profession to be nominated and confirmed as Librarian of Congress. His achievements at the Library of Congress between 1939 and 1944 were many; he also was an eloquent spokesman on behalf of libraries and librarianship. His [...]

Date: 1892

＜参考＞
藤野幸雄『アメリカ議会図書館：世界最大の情報センター』（中公新書）中央公論社，1978

大戦中のLC館長マクリーシュとユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の設立

- 40年間LC館長を務めたパトナム（Herbert Putnam,在任1899-1939）の後任が、マクリーシュ（Archibold Macreish,在任1939-1944）
- 文筆家で詩人、F. ルーズベルト大統領（在任1933.3-1945.4）の信頼厚く、政府の要職も兼務
- 膨張著しいLCの機構改革を断行するなど大きな功績
  - L.エヴァンズ（Luther Evans）副館長、管理局長や収書局長を歴任したV.クラップ（Verner W.Clapp）らの存在
- 1944年12月に広報・文化担当の国務次官に任じられ、館長を辞任
- 1945年11月、ユネスコ憲章制定のロンドン会議に、米国使節団代表主席として出席（11月16日に憲章採択、1946年11月4日発効）
  - マクリーシュの後任のエヴァンズLC館長も使節団の顧問を務める

「ユネスコ憲章」第1条　日本語訳（部分）（文部科学省のサイトに掲載）https://www.mext.go.jp/unesco/009/001.htm

第1条　目的及び任務

1　この機関の目的は、国際連合憲章が世界の諸人民に対して人種、性、言語又は宗教の差別なく確認している正義、法の支配、人権及び基本的自由に対する普遍的な尊重を助長するために教育、科学及び文化を通じて諸国民の間の協力を促進することによって、平和及び安全に貢献することである。

2　この目的を実現するために、この機関は、次のことを行う。

(a)大衆通報（マス・コミュニケーション）のあらゆる方法を通じて諸人民が相互に知り且つ理解することを促進する仕事に協力すること並びにこの目的で言語及び表象による思想の自由な交流を促進するために必要な国際協定を勧告すること。

(b)次のようにして一般の教育と文化の普及とに新しい刺激を与えること。

加盟国の要請によって教育事業の発展のためにその国と協力すること。

人種、性又は経済的若しくは社会的な差別にかかわらない教育の機会均等の理想を進めるために、諸国民の間における協力の関係をつくること。

自由の責任に対して世界の児童を準備させるのに最も適した教育方法を示唆すること。

(c)次のようにして知識を維持し、増進し、且つ、普及すること。

世界の遺産である図書、芸術作品並びに歴史及び科学の記念物の保存及び保護を確保し、且つ、関係諸国民に対して必要な国際条約を勧告すること。

教育、科学及び文化の分野で活動している人々との国際的交換並びに出版物、芸術的及び科学的に意義のある物その他の参考資料の交換を含む知的活動のすべての部門における諸国民の間の協力を奨励すること。

いずれの国で作成された印刷物及び刊行物でもすべての国の人民が利用できるようにする国際協力の方法を発案すること。

用語“Bibliographical control”の発案者としてのエヴァンズ館長

- エヴァンズ（Luther Evans）は政治学で学位取得、歴史文書の調査事業で評価され、マクリーシュ館長によって、1939年にLC立法調査局の局長、1940年に副館長に任じられる
- マクリーシュの後任のLC館長として、1945年6月にトルーマン大統領（在任1945-1953）が選任。同時にクラップが副館長に
- 1946年に“History and the problem of bibliography.” *College & Research Libraries*. Vol.7, No.3 (1946.7)を発表
  - https://doi.org/10.5860/crl_07_03_195
  - LCの全米の書誌情報のセンターとしての役割、International bibliographical controlsの重要性、国際書誌センターとしてのユネスコの可能性を主張

「ユネスコ／議会図書館文献書目計画班」の活動

- 1950年に開催予定の国際会議の討議原案作成のため、世界的な文献サービスの実情を調査・分析し、活動指針を示す目的
  - 1948年11～12月、第3回ユネスコ総会の決定事項に基づく
- 1949年2月、LCにおいてエヴァンズ館長が、クラップ副館長、整理局長、米国農務省図書館館長、専務書記のマラ（Kathrine O. Murra）らを招集して会合
- 第1次・第2次中間報告（1949年7月・9月）は、ユネスコ図書館部長名で各国の国際図書館連盟（IFLA）および国際ドキュメンテーション連盟（FID）、国立図書館等に送付され、関係方面への周知、議論を要請
- 「国際書誌サービス改良会議」の討議原案として、1950年に“Bibliographical services, their present state and possible improvement”（『書誌サーヴィス：その現状と可能性』をとりまとめ、各国に送付

『書誌サーヴィス：その現状と可能性』（討議原案）の構成

- １　書誌（定義・目的・任務・書誌調整）
- ２　書誌の現況
- ３　書誌事業（Bibliographic services)の統合による改善
- ４　最新包括書誌(Current comprehensive bibliography)の役割
- ５　最新選択書誌(Current selective bibliography)の役割
- ６　全国的書誌活動（National bibliographical activity）の役割
- ７　国際的書誌活動（International bibliographical activity）の役割
- 序文はエヴァンズによる（1949年12月付）。附録として、マラ（Murra）による「最新完全全国書誌の概念の発展に関する覚書」あり
  - ➢NDL受入整理部による訳『ユネスコ／米国議会図書館書誌調査　書誌サーヴィス：その現状と改善の可能性』，国立国会図書館受入整理部，1950. および附録. 国立国会図書館デジタルコレクション

“Bibliographic(al) control”という用語の扱い

- 第1回中間報告（1949.7）の冒頭に“Bibliographical control”を掲げる（第2回中間報告の用語定義もほぼ同様の内容）
  - ➢「研究者の思想、活動、経験及び目的等の如何にかかわらず、彼が必要とする知識を（略）を発見し、究明し、獲得せしめ得る工夫とサーヴィス」（NDL受入整理部による訳。原文は以下にあり）
  - ➢Kathrine Oliver Murra. Unesco-Library of Congress Bibliographical Survey: First Interim Report of tne Library of Congress Bibliographical Planning Group, June 1949. *College & Research Libraries*. Vol.10, No.4 (1949.10)
  - ➢https://doi.org/10.5860/crl_10_04_406
- しかし、討議原案（1950）の　“Bibliographic control”は　・・・
  - ➢「書誌を用い、また書誌を目的として、手写または刊行された記録物を自由に駆使することを意味する。（「書誌調整」とは、書誌・目録によって効果的に資料に接すること）と同義である。（略）」（NDL受入整理部による訳）
  - ➢ “the mastery over written and published records which provided by and for the purpose of Bibliography” and as being synonymous with the phrase “effective access thorough bibliographies”
- “Bibliography”，“Bibliographical services”とともに用語定義（p.1）に示されるのみで、本文には使用されていない

“Bibliographic control” と “Bibliographic organization”

- 1949年から50年にかけ、シェラ（Jesse H. Shera）およびイ―ガン（Margaret Egan）により、“Bibliographic control” さらにこれに置き換わるものとして、” Bibliographic organization” の概念が提示される
  - 根本彰『文献世界の構造：書誌コントロール論序説』勁草書房, 1998
  - 「書誌コントロールとは、最高の速度と最大の経済性をもって記録情報の総体から、特定の課題に関連する部分を取りだすことができるよう知的エネルギーを振り向けるのに用いられる仕組のことである。」（Egan & Shera. Prologomena to Bibliographic Control, *Journal of Cataloging and Classification*, V(winter, 1949), 17 ）『文献世界の構造』p.153
- シェラは、当時ALA書誌委員会の委員長で、米国の書誌調査を担当し、書誌サービス改良会議にも米国代表として出席。1950年7月に” Bibliographic organization” （書誌組織化活動）をテーマとする会議を開催
  - 基調報告を行ったクラップLC副館長による” Bibliographic organization（書誌組織化）” の定義は、「人間のコミュニケーションの記録を体系的にリスト化した結果生まれる効果的配列のパターン」『文献世界の構造』p.12

書誌サービス改良会議

- 1950年11月7～10日にパリのユネスコ・ハウスで開催、国および国際機関の代表41グループが出席し、14項目の決議を行う
- (1)各国における全国的計画組織の設置、(2)書誌出版物（一般的全国書誌を先行し、各種の資料種を対象とする）、(3)全国書誌や他の書誌が備えるべき要件、(4)全国書誌刊行のための体制、(5)国立図書館の設置、(6)納本制度の確立、(7)図書館間の協力（総合目録の整備）、(8)全国書誌情報センターの設置、(9)専門書誌および情報サービス機関との協力、(10)専門家の育成
- ユネスコに対して、永続的な書誌に関する国際諮問委員会を設置し、その任務、メンバーとなる機関、活動等を勧告（11～14）
  - General report of the Conference on the Improvement of Bibliographical Services. UNESCO/CUA/5 Paris, 15 December 1950.
  - https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000127057.locale=en
  - 前嶋正子「書誌調整の歴史」Library and Information Science. No.9, 1971

1950年以降のLC

- 書誌サービス改良会議は、ユネスコの書誌活動に対するLCによるバックアップによって開催され、各国の書誌改善のための活動（特に包括的な全国書誌の存在）が国際的な書誌活動の基盤となるとの方向が明示された
- しかし、LC館長のエヴァンズは、予算の大幅な増額要求、活発な国際的な活動等によって、連邦議会と険悪な関係に
- 1953年、ユネスコの事務局長に立候補して当選、7月に館長を辞任、1958年まで事務局長を務める
  - 後任のLC館長は、図書館の経験豊富なマンフォード（Lawrence Quincy Mumford、在任1954.4-1974.12）
- クラップ副館長は、1956年にLCを退職。図書館振興財団（Council on Library Resources）の初代会長になり（～1967）、MARCの開発、CIPの導入などの書誌関係事業に対しても支援を行った。

そして国立国会図書館（NDL）は？

NDL	LC・ユネスコ等
1945.8　終戦	1945.6　エヴァンズがLC館長、クラップが副館長に就任 1945.11　ユネスコ創設 1946.7　エヴァンズ “History and the problem of bibliography.”
1946.11.3　「日本国憲法」公布	
1947.4.30　「国会法」制定、「国会図書館法」制定。両院の図書館運営委員会による審議開始	
1947.7.12　GHQに対し米国の図書館運営専門家の使節団派遣依頼	
1947.12.14～1948.1.6 図書館運営委員会と協議を重ね「国立国会図書館法」草案作成	LC副館長クラップとALA東洋部長C. H. ブラウンが使節団として来日。

NDL	LC・ユネスコ等
1948.2.4　「国立国会図書館法」成立。2月9日制定。金森徳次郎館長就任（2/25）、中井正一副館長就任（4/16）。赤坂離宮でNDL開館（6/5）	
1948.7　ダウンズ報告書	イリノイ大学図書館長ダウンズ（Robert B. Downs）がGHQ民間情報局教育局特別顧問として来日
1949　印刷カード事業開始 中間報告を翻訳し、国内に送付	1949.7　ユネスコ/議会図書館文献書目計画班活動開始。中間報告を各国へ送付
1950.5　書誌サービス改良会議への意見書『日本における全国的書誌調整の改良とその国際的書誌調整との関連』（NDL文献書目日本ユネスコ調査班）をユネスコに送付	1950　「書誌サービス改良会議」の討議原案を各国に送付
討議原案『書誌サーヴィス』を翻訳し、国内に送付 岡田温受入整理部長、市川泰治郎国際業務部長をパリの会議に派遣	**1950.11.7-10　ユネスコ、「書誌サービス改良会議」をパリで開催**

https://archon.library.illinois.edu/archives/index.php?p=digitallibrary/digitalcontent&id=12690

University Archives → Holdings → Digital Archives → Robert Downs with National Diet Library Staff in Japan

Robert Downs with National Diet Library Staff in Japan | University of Illinois Archives

Email us to request a hi-resolution copy.

Title: Robert Downs with National Diet Library Staff in Japan
Date: Sept. 11, 1948
Phys. Desc: TIFF

Found in RS 35/1/22, Box 33, Folder "Japan, National Diet Library Staff, 1948"

ID: 0010222
Repository: University of Illinois Archives
Found in: 35/1/22 Robert B. Downs Papers, 1927-90
Subjects: Japanese Libraries
Librarians
Library Staff
Contributor: Sun News Photos, Tokyo, Japan
Rights: The holder of copyright for this image is unknown. Please contact us if you would like to purchase a high-resolution copy of the image or if you can help us identify the copyright holder.

ダウンズ（米国イリノイ大学図書館長）とNDL職員の記念撮影（イリノイ大学アーカイブ所蔵）
参考：「国立国会図書館が赤坂離宮にあった頃」『NDL月報』（743）2022.6, p.11

「NDLデジタルコレクション」所収の書誌サービス改良会議関係資料（すべて送信サービス資料）

- ユネスコ／米国議会図書館文献書目計画班；国立国会図書館受入整理部訳 『ユネスコ米国議会図書館文献書目計画班中間報告書』第1回,国立国会図書館受入整理部,1949.
  - https://dl.ndl.go.jp/pid/3000570
- 同上　第2回,国立国会図書館受入整理部,1949.
  - https://dl.ndl.go.jp/pid/3000571
- ユネスコ／米国議会図書館；国立国会図書館受入整理部訳 『ユネスコ米国議会図書館書誌調査　書誌サーヴィス：その現状と改良の可能性』国立国会図書館受入整理部,1950.
  - 本編　https://dl.ndl.go.jp/pid/2939199
  - 附録　https://dl.ndl.go.jp/pid/2939200
- 国立国会図書館文献書目日本ユネスコ調査班『日本における全国的書誌調整の改良とその国際的書誌調整との関連　ユネスコの国際的書誌調整に関する国際会議の草案に対する意見書』国立国会図書館文献書目日本ユネスコ調査班,1950.
  - https://dl.ndl.go.jp/pid/2935446
  - 附録『日本における文献書目サービス：実情と分析』
  - https://dl.ndl.go.jp/pid/2935447

日本からの意見書（１）

- 1950年5月付の金森館長の序言
  - 調査班の中間報告、討議原案が次々にユネスコからNDLに送付され、1950年6月1日を期限に意見を求められた。受入整理部で中間報告を翻訳、全国の大学図、公共図、文部省、日本学術会議等の250機関に配布
  - NDLに「文献書目日本ユネスコ調査班」を設置、メンバーは、中井副館長、岡田温（ならう）受入整理部長、市川泰治郎国際業務部長、若干の職員、JLA有山崧（たかし）事務局長、東大附属図書館河合博司書官
  - 配布先から顕著は意見はなかったが「わが国の書誌調整が国際書誌調整との関連の下で整備されるべきであるという結論には、誰一人として反対するものがないばかりか、誰一人として満腔の賛意を表さないものはないのである。」
  - 全国的書誌計画組織をNDL内に設置する意欲を示す
- タイトル『日本における全国的書誌調整の改良とその国際的書誌調整との関連』に見るごとく、中間報告（第1回）の冒頭に掲げられた「書誌調整」（Bibliographical control）というコンセプトを受容する姿勢が非常に強い

日本からの意見書（２）

- 本文（28p）の構成
  - 1.包括的な新刊全国書目、2.選択的な新刊全国書目、3.全国総合目録、4.索引及び摘録サーヴィスの案内書、5.古籍集攬目録、6.業務、資材並びに情報につき不経済な重複となっているもの、7.書誌事業の資金調達、8.全国的文献書目計画班の組織、9.全国的書誌事業の統合、10.図書館、documentation centers等を通じての書誌事業の改良進歩、11.国際的書誌調整に関係ある主要な問題（目録技術に関する諸問題、翻字、翻訳、用語、交換、国際中央機関への参加）
  - 意見書というよりは、日本の書誌の状況および着手段階にある計画について説明する内容。現状が「理想的な最小限度の全国書誌調整」を検討する段階にあるとして「わが国の現状は寧ろ本格的な書誌活動の処女地にも喩えられる」と表現（p.16）
  - 中間報告第2回において、調査班がユネスコに対して行うとしている勧告案はいずれも支持に値するが、特に資金調達、書目の交換、国際中央機関への参加、翻訳の4つに十分斟酌してほしいと要望
- 附録『日本における文献書目サーヴィス：実情と分析』（38p）
  - 1.過去及び現在の実情、2.分析（欠陥の所在と原因）、3. 改革の気運（戦後の動きをピックアップ）

書誌サービス改良会議とNDL

- NDLは日本の代表団として、パリの会議に岡田受入整理部長と市川国際業務部長の2名を派遣
  - 岡田温「ユネスコ書誌サーヴィス改良会議」 中井正一，岡田温共編『図書館年鑑』1952,図書館資料社,1951. p.3-5
    - 国立国会図書館デジタルコレクション https://dl.ndl.go.jp/pid/3043938（館内限定公開）
- 1951年、館長の諮問委員会として「書誌サーヴィス改良委員会」を設置、副館長を委員長とし、NDL職員および外部委員で構成。ユネスコの書誌計画の受け皿、書誌サービスの全国的計画組織を期したと考えられる
  - 岸幸一「ユネスコの図書館活動」同上　p.6-9
- 2年程度は活発に審議が行われたが、その後休眠化
  - 中井正一副館長は1952年5月死去
- ユネスコへの協力としては、世界翻訳書誌（Index Translationum, 1979年以降はDB化）への翻訳書の目録データの提供、国際交換のツールを意図した『日本学術雑誌目録=Directory of Japanese learned periodicals』（1952）の編さん・刊行等も行われた

ちなみに・・・

- 「NDLサーチ」で改めて検索したところ、NDLが翻訳した1949年の「中間報告」（第1・2回）は県立図5館、大学図（CiNii経由）16館、1950年の『書誌サーヴィス』（討議原案）は県立図18館、大学図18館、NDLによる意見書は県立図7館、大学図15館が所蔵
  - 金森館長の序文のとおり、国内の図書館に配布されたことを確認
  - 書誌情報の歴史的な記録（Records）としての意義
  - 一方で、「デジコレ」に収録された資料は、将来的にも各館の「個別資料」として保持され得るのか、という疑念
- なお、クラップ元LC副館長は、1968年にNDLからの招待により再訪、1972年に死去した翌年、553点の旧蔵書が夫人からNDLに寄贈された
  - 田中梓「クラップ氏と国立国会図書館」『NDL月報』No.274（1984.1）
  - 「NDLサーチ」では「クラップコレクション」で249件検索でき、大部分は東京本館の人文総合情報室で閲覧できる


```
?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?><rdf:RDF xmlns:rdf="http://www.w3.org/1999/02/22-rdf-syntax-ns#" xmlns:rdfs="http://www.w3.org/2000/01/rdf-schema#" xmlns:dc="http://purl.org/dc/elements/1.1/" xmlns:dcterms="http://purl.org/dc/terms/" xmlns:dcndl="http://ndl.go.jp/dcndl/terms/" xmlns:foaf="http://xmlns.com/foaf/0.1/" xmlns:owl="http://www.w3.org/2002/07/owl#" ><dcndl:BibAdminResource rdf:about="https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R100000002-I033043135"><dcndl:catalogingStatus>C7</dcndl:catalogingStatus><dcndl:catalogingRule>ncr/2018</dcndl:catalogingRule><dcterms:description>type : book</dcterms:description><dcndl:bibRecordCategory>R100000002</dcndl:bibRecordCategory><dcndl:bibRecordSubCategory>111</dcndl:bibRecordSubCategory><dcndl:record rdf:resource="https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R100000002-I033043135#material" /></dcndl:BibAdminResource><dcndl:BibResource rdf:about="https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R100000002-I033043135#material"><rdfs:seeAlso rdf:resource="http://id.ndl.go.jp/jpno/23890262"/><dcterms:identifier rdf:datatype="http://ndl.go.jp/dcndl/terms/JPNO">23890262</dcterms:identifier><dcterms:identifier rdf:datatype="http://ndl.go.jp/dcndl/terms/NDLBibID">033043135</dcterms:identifier><rdfs:seeAlso rdf:reso... dl.go.jp/isbn/9784907126599"/><dcterms:identifier rdf:data... go.jp/dcndl/terms/ISBN">978-4-907126-59-9</dcterms:identifier><dcterms:title>夢見る「電子図書館」</dcterms:title><dc:title><rdf:Description><rdf:value>夢見る「電子図書館」</rdf:value><dcndl:transcription>ユメ ミル 「 デンシ トショカ ン 」</dcndl:transcription></rdf:Description></dc:title><dcterms:creator><foaf:Agent
```


Part2
MARCからメタデータへ

NDLの書誌情報提供に見るいくつかの時代的局面

「書誌部」の遺産

草創期（機械化以前）1950～70年代

- 1948年2月制定の国立国会図書館法には、国立図書館が関与すべき「書誌コントロール」の主要な要素が胚胎していた
  - 日本で刊行された出版物の目録又は索引の刊行（第7条）、印刷した目録票の頒布（第21条3号）、日本の図書館資料資源に関する総合目録等の作成（第21条4号）
- 「ダウンズ報告」によって進めるべき事業の内容が具体化され、1950年に開催された「書誌サービス改良会議」にも参加
  - 国際的にも、ユネスコを中心に据えた書誌推進体制の提唱期
- 印刷カード、『全日本出版物総目録』、雑誌記事索引等の事業に着手
  - ただし、ダウンズが強調した全国総合目録には着手できず
  - 和洋共用の「国立国会図書館分類表（NDLC）」を制定
- 1950～60年代、整理業務はルーチン化。60年代初頭に機械化の検討が始まり、書誌作成がそのターゲットとなったことで事態は次の局面に

MARC（Machine Readable Catalog=機械可読目録）の時代　1970～80年代　①UBC

- 1966年にLCがMARCフォーマットを開発、世界各国がMARC開発に意欲を示す中で、データ交換のための標準化が国際的な課題に
- IFLA（国際図書館連盟）が1974年にコアプログラムとして、”Universal Bibliographic Control（UBC）”＝「国際書誌コントロール」を立ち上げ
  - 各国の全国書誌作成機関によるネットワークの形成により、互換性のある書誌情報の交換をめざす
  - UNIMARCの開発により、1987年からは”Universal Bibliographic Control and International MARC（UBCIM）”に改称
- 「国際書誌コントロール」のコンセプトがここで返り咲く
- 1977年、UBCのプログラムの一環として「全国書誌国際会議（International Conference of National Bibliographic Service）がパリで開催される

MARC（Machine Readable Catalog=機械可読目録）の時代　②JAPAN/MARC

- 1977年の「全国書誌国際会議」はNDLの当時の課題にまさに同期していた
  - ➢1970年代初頭にコンピュータを導入、機械化を推進
  - ➢日本の標準MARCの開発と「日本全国書誌」の再編成を目指す
    - 宮坂逸郎「全国書誌国際会議の勧告と国立国会図書館」『NDL月報』No.208（1978.7）
- 1979～80年にジャパン・マーク審議会を開催し、フォーマット仕様と利用方法を諮問、答申を得る
- 1981年から磁気テープに格納したJAPAN/MARCファイルを週次で頒布
  - ➢「印刷カード」からMARCへ。ユーザは基本的に図書館。自館の業務用システムに取り込んで利用
  - ➢1987年からCD-ROM版のJ/BISCをJLAが販売、利用の裾野を開いたが、図書館だの利用が一般的だった

オンライン目録の時代　1990年代後半～2000年代
①Web-OPAC

- カード目録からオンライン目録へ
- 「国立国会図書館Web-OPAC」（2000年3月、NDLが初めてインターネットで公開した目録検索システム）の“衝撃”
  - ➢和図書200万件、洋図書20万件を収録
  - ➢「著者標目」による検索ができない
  - ➢⇒書誌情報の「作成」と「提供」の乖離
- NDLの「電子図書館構想」（1998）とその推進
  - ➢定義＝「図書館が通信ネットワークを介して行う一次情報（資料そのもの）及び二次情報（資料に関する情報）の電子的な提供とそのための基盤」
  - ➢電子図書館のパイロットプロジェクトとして、これまで着手できなかった「全国総合目録ネットワーク」のシステムを開発、2000年時点で本格事業化
  - ➢Web-OPACは、NDLが電子図書館計画を進める上での最初のコンテンツ
- インターネットで提供すること、しかも大量に提供すること、の意味

Web-OPAC

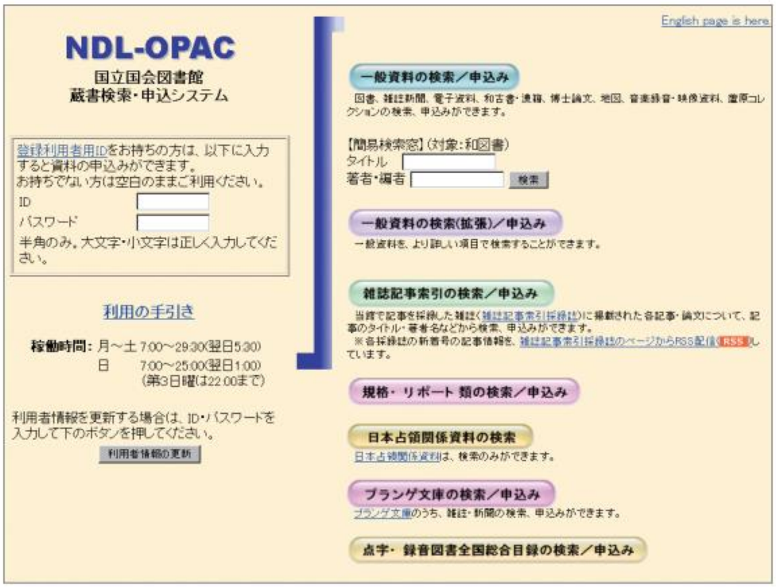
左から、国立国会図書館ホームページ上の Web-OPAC への入り口（簡易検索窓がある）、
Web-OPAC 検索画面

『国立国会図書館70年記念館史：デジタル時代の国立国会図書館1998-2018』（2021）p.116より

オンライン目録の時代　②NDL-OPAC

- 2002年10月、関西館開館に合わせて「国立国会図書館蔵書検索・申込システム（NDL-OPAC」を公開
  - 1998年から開発が進められてきたNDLの当時の図書館統合システム（「電子図書館基盤システム」）の一環として開発
  - 館の書誌データベースを一元的に管理する統合書誌DBを中核とする
- 一般のユーザによるNDLの蔵書の利用、複写物のインターネット請求といったサービスへのアクセス手段としての書誌情報の意義の再認識
  - 典拠データを検索に活用
  - ⇒館内的な書誌コントロールが反映されたシステム
  - 一方で、書誌情報はJAPAN/MARCの頒布等による有償提供が原則で、インターネット公開は検索機能のみとの限定あり
- 国際的な動きとしては、1998年に第2回「全国書誌国際会議」がコペンハーゲンで開催され、ネットワーク情報資源の扱いが新たな課題に。FRBR等、目録の機能の見直しが進行、IFLAのUBCIMは、2003年で終了

NDL-OPAC



『国立国会図書館70年記念館史：デジタル時代の国立国会図書館1998-2018』（2021）p.118より

サーチの時代　2010年代～

- 「電子図書館中期計画2004」 が柱の一つに“日本のデジタル情報全体へのナビゲーションの統合サイトを構築する”ことを掲げ、2007年に「PORTA」、2012年に「NDLサーチ」を公開
- サーチ自体が書誌情報のユーザ
  - OPACと異なり、NDLの蔵書の管理や利用から開放されたメタデータ・データベース
  - 書誌作成の現場から見れば、警戒感を感じる存在
  - …である一方、メタデータ提供のAPIを装備することでオープンデータ化への道を拓いたこと、中期計画2004のポリシーによる“情報資源に関する情報の充実”に基づき、「Web NDL Authorities」がサーチのシステム基盤上で開発されたことなど、書誌情報の提供面での新しい局面をもたらした
- 2024年1月には、「NDL-OPAC」を2018年に引き継いだ「NDLオンライン」を統合し、書誌情報関連システムは「NDLサーチ」に一本化された

NDLの組織面から見た書誌関連業務

1986年（新館完成後）の機構改革までの部編成

1976年に「収書部」と「整理部」を「収集整理部」と「逐次刊行物部」に改組

総務部
調査及び立法考査局
収集整理部
逐次刊行物部
閲覧部
参考書誌部
連絡部

→

1986年から2002年の関西館設置まで

3つの資料区分を基本にした部編成に。整理業務は分散

総務部
調査及び立法考査局
収集部
図書部
逐次刊行物部
専門資料部
図書館協力部

「書誌部」の誕生（2002年4月）

- 2002年4月の関西館設置に伴う機構改革によって、整理部門を集約した「書誌部」が誕生
- 筆頭の課は「書誌調整課」。書誌調整を名称とする組織が初めて誕生
  - 書誌調整課、国内図書課、外国図書・特別資料課、逐次刊行物課の4課から構成
  - 「書誌調整連絡会議」を開催（第1回は2000年度～）
    - https://www.ndl.go.jp/jp/data/basic_policy/bib_control/conference.html
  - IFLAの書誌分科会の常任委員をNDLから選出（2003年度～）

総務部
調査及び立法考査局
収集部
書誌部
資料提供部
主題情報部
関西館（資料部・事業部）
国際子ども図書館

「収集書誌部」への統合（2008年4月）

- 「書誌部」の成果
  - ➢書誌データ作成体制の整備
  - ➢NDLSHのシソーラス化（2004）
    - Web NDLSH⇒Web NDL Authorities、リンクトデータ化への展開
  - ➢国際的な動向への対応
    - 「国際目録原則覚書」等の翻訳作業
    - VIAF（ヴァーチャル国際典拠ファイル）への参加、OCLCへのデータ提供等への道を開く
  - ➢「書誌データの作成・提供の方針（2008）」の策定
- 「収集書誌部」への統合
  - ➢組織のスリム化、人員削減への対応
  - ➢業務の固定化、細分化のデメリットを回避、収集業務との相互乗り入れをはかる
  - ➢「書誌調整課」は収集部の「収集企画課」と統合して「収集・書誌調整課」に

総務部
調査及び立法考査局
収集書誌部（2008年4月～）
利用者サービス部（2011年10月に「資料提供部」と「主題情報部」を「利用者サービス部」と「電子情報部に改組）
電子情報部（2011年10月～）
関西館（2007年4月に部立てを廃止）
国際子ども図書館

2024/4/20 35

?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?><rdf:RDF xmlns:rdf="http://www.w3.org/1999/02/22-rdf-syntax-ns#" xmlns:rdfs="http://www.w3.org/2000/01/rdf-schema#" xmlns:dc="http://purl.org/dc/elements/1.1/" xmlns:dcterms="http://purl.org/dc/terms/" xmlns:dcndl="http://ndl.go.jp/dcndl/terms/" xmlns:foaf="http://xmlns.com/foaf/0.1/" xmlns:owl="http://www.w3.org/2002/07/owl#" ><dcndl:BibAdminResource rdf:about="https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R100000002-I033043135"><dcndl:catalogingStatus>C7</dcndl:catalogingStatus><dcndl:catalogingRule>ncr/2018</dcndl:catalogingRule><dcterms:description>type : book</dcterms:description><dcndl:bibRecordCategory>R100000002</dcndl:bibRecordCategory><dcndl:bibRecordSubCategory>111</dcndl:bibRecordSubCategory><dcndl:record rdf:resource="https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R100000002-I033043135#material" /></dcndl:BibAdminResource><dcndl:BibResource rdf:about="https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R100000002-I033043135#material"><rdfs:seeAlso rdf:resource="http://id.ndl.go.jp/jpno/23890262"/><dcterms:identifier rdf:datatype="http://ndl.go.jp/dcndl/terms/JPNO">23890262</dcterms:identifier><dcterms:identifier rdf:datatype="http://ndl.go.jp/dcndl/terms/NDLBibID">033043135</dcterms:identifier><rdfs:seeAlso rdf:resource="http://iss.ndl.go.jp/isbn/9784907126599"/><dcterms:identifier rdf:datatype="http://ndl.go.jp/dcndl/terms/ISBN">978-4-907126-59-9</dcterms:identifier><dcterms:title>夢見る「電子図書館」</dcterms:title><dc:title><rdf:Description><rdf:value>夢見る「電子図書館」</rdf:value><dcndl:transcription>ユメ ミル 「 デンシ トショカ </dcndl:transcription></rdf:Description></dc:title><dcterms:creator><foaf:Agent

おわりに

「NDLサーチ」からのアプローチ

2024/4/20 36

「書誌コントロール」は続く

- 書誌情報がある限り、書誌調整は続く
  - 『日本目録規則　2018年版』の改訂への協力と適用
  - 各種の適用細則の整備、
  - JAPAN/MARCフォーマットの改訂
- NCR改訂の目標である目録の機能の向上が、提供面においてどのように反映されるのか、は今後長く続く課題
- 今、その舞台となるのは「サーチ」
- もっとも、「サーチ」を書誌コントロールすることはできない
- 「サーチ」を舞台として、どのように有効なフレームワーク（Framework）を形成するか、というアプローチ

「サーチ」と全国書誌のフレームワーク

- 2024年3月1日の「書誌調整連絡会議」では「全国書誌サービスの現状と将来」がテーマ
- 2024年1月から「サーチ」で「全国書誌データ検索」「全国書誌（電子書籍・電子雑誌編）」のサブ画面を公開
- 書誌情報（メタデータ）のダウンロードを主目的として、検索の範囲を4つにパターン化
- 従来よりも「全国書誌」の枠組が明確化
- さらに、「…NDLサーチは拡張された全国書誌であるということができる。」という、より大きなフレームワーク
  - 日本図書館情報学会編『図書館情報学事典』丸善出版，2023.7，p.172．和中幹雄「全国書誌」より

おわりに

- 「デジコレ」時代の「拡張された書誌コントロール」、「メタデータの機能拡張」が考えられるとしたらなんと呼ぶか？
  - Expanded (Enhanced) Bibliographic Control
  - Expanded (Enhanced) Metadata Organization
  - Metadata Control
  - Metadata Extension
  - Access Control
  - Access Framework
  - ???
- ご清聴ありがとうございました。